

平成26年全国町村長大会 来賓挨拶

自由民主党の幹事長代理を務めております、参議院議員の末松信介でございます。急遽解散が決まりまして、谷垣幹事長があらゆる指示、判断をしなければならないことから、どうしてもこの町村長大会に来る事が出来ませんので、代わりに私が伺った次第です。自由民主党を代表してご挨拶を申し上げたいと思います。本日、全国928の町村長の皆様方が集まりまして、盛大に大会が開かれましたことを、まず、心からお喜び申し上げます。

先程、安倍総理大臣、また石破地方創生担当大臣からもお話がございましたが、2009年8月に自由民主党は政権を失いました。あの時の議席は、衆議院119議席、参議院は僅かに71議席の合計190議席でした。その190人の議員で、落選中の議員、そして自分たちの活動費を賄っていくという時代だったのであります。朝の勉強会や部会でも、以前なら各省庁から局長が来ていたのが、課長や企画官といった方々になってしまいました。あの3年4ヶ月の野党の間に、我々が学んだことは、石破大臣がよく言われるように、傲りがあつたのではないかと。自民党は謙虚さ、親切さ、丁寧さ、そして慎重さ、このことをもっと大切にしなければならないということ、そして、自民党の立党の精神は、地域政党であること、地方が原点であるということに我々は改めて気付かされたわけであります。このことは、今も全く変わる事はありません。

昨夜テレビを観ていましたら、高倉健さんが83歳で亡くなられたというニュースがありました。私はその時思ったのですけれども、自民党が強かったのは、日本人の精神の支柱である、義理と人情を自然と重んじていたからではないかと。ですから我々も、個々の家庭に出向いて人々の悩みを聞き、細かな提案をして、そして地域に入って行って、御輿を担いだり、色んなお祭りに参加して、溶け込む努力をした訳であります。私たちは、義理と人情、そして地域と地方という事を忘れてしまったら、自由民主党は決して成り立たないということ、町村長の皆様方に申し上げたいと思いません。

あの政権を失った時に、我々はマイクを使わず、住民の皆様方と膝詰めで、しっかり話をして、それを政策に代えていこうという、ふるさと対話集会を始めました。すでに600回を超えております。その延長線上に、今回の地方創生法案やまち・ひと・しごと創生法案があり、この法案を、しっかり参議院で可決をしたいと思っております。

す。平成27年度末までに、皆様方に総合戦略を策定していただく事になっております。それをしっかり、自由民主党が支援をしていくという、そのことを我々は大事にしていきたいと思っております。

私は政治の道に入って31年になります。兵庫県の県会議員を6期、20年余り務めさせていただきました。兵庫県というのは、日本の縮図とよく言われております。今、県内29市12町ですが、12の町は色々な顔を持っております。瀬戸内海の漁業と、日本海の漁業は違いますし、淡路島では三毛作出来ても、コウノトリで有名な豊岡では、冬はビニールハウスを使って栽培しなければ農業は成り立ちません。それぞれ、町村の抱える問題は違っているのです。自由民主党は、大きな組織はありませんけれども、しっかり地域を見て、必ず皆様方の先頭に立って頑張れる政党だと私は信じております。しっかり努力をしますので、変わらぬご支援を心からお願いを申し上げます。自由民主党を代表しての挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

平成26年11月19日

自由民主党幹事長代理

末松信介